岩手県内中小企業の景況　【2022年５月分情報連絡員レポート】

１．全国の景況　（全国中小企業団体中央会令和４年６月２７日発表）

５月のＤＩは改善基調にあるも先行き不安感拭えず。３年ぶりに行動制限のないゴールデンウイークを迎え、外食・宿泊関連のサービス業や卸売業、食料品等の製造業を中心に、景況感は前月に比較しやや改善した。一方、引き続き原油・原材料の高騰や部品の調達難に加え、電力料金等の高騰、円安による輸入物価の上昇の影響に加え、コロナウイルス収束の先行き不透明感も残っている。相次ぐ原材料価格の高騰に対し、製造業を中心に価格転嫁の交渉が十分に進まないことも重しになり、先行きの景況に対し懸念を示す声が引き続き多く寄せられた。

２．景況天気図（県内）…令和4年４月と令和4年５月のDI比較

天気図の見方…各景況項目について「増加」「好転」業種割合から「減少」「悪化」業種割合を引いた値をもとに作成。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向を表す。

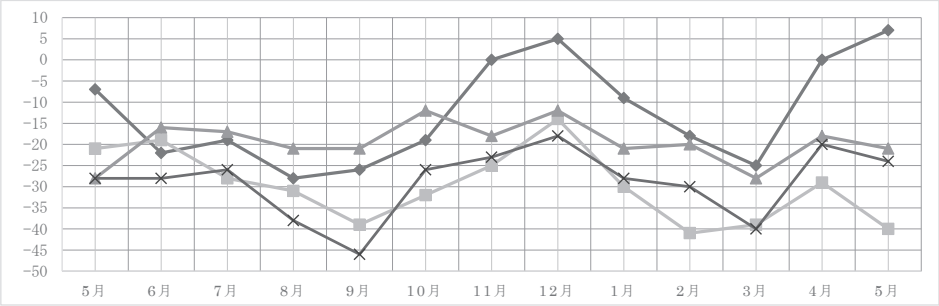
令和4年5月分	全産業			製造業			非製造業		
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比
売上高	0	7	7P ↗	16	27	11P ↗	△ 8	0	8P ↗
在庫数量	△ 10	△ 7	3P ↘	△ 5	9	14P ↘	△ 15	△ 19	4P ↗
販売価格	20	31	11P ↗	21	36	15P ↗	19	29	10P ↗
取引条件	△ 11	△ 21	10P ↘	△ 5	△ 9	4P ↘	△ 14	△ 26	12P ↘
収益状況	△ 29	△ 40	11P ↘	△ 26	△ 27	1P ↘	△ 30	△ 45	15P ↘
資金繰り	△ 18	△ 21	3P ↘	△ 21	△ 18	3P ↗	△ 16	△ 23	7P ↘
設備操業度	△ 16	9	25P ↗	△ 16	9	25P ↗	—	—	—
雇用人員	△ 5	0	5P ↗	0	18	18P ↗	△ 8	△ 6	2P ↗
業界の景況	△ 20	△ 24	4P ↘	△ 21	△ 18	3P ↗	△ 19	△ 26	7P ↘

30以上
10～29
△9～9
△10～△29
△30～△49
△50以下

DI（Diffusion Index）とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。
「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いた指数のこと。

３．全産業（県内）…令和３年５月～令和４年５月 DI 推移（売上高・収益・資金繰・景況）

○情報連絡員数 56 名・回答者数 42 名・回答率 75.0%



令和４年５月ＤＩ《　◆…売上 7　■…収益 −40　▲…資金繰り −21　×…景況 −24　》

Ⅲ．各業種の概況（県内）…令和４年５月分

◇パ　ン　製　造　業

原材料費や物流費等の上昇を早々に価格転嫁できた所と遅れた所の事業所間格差が広がっている傾向が見られる。

◇一　般　製　材　業

製材品の材料となる原木が高騰し、特にカラマツ原木はロシアのカラマツ単板輸出禁止等の影響で価格が上昇しており、県内製材所では入手し難くなっている。

◇家　具　・　装　備　品　製　造　業

コロナ以前の水準に戻りつつあった春先の出荷額に比べ、５月は大きく落ち込む結果となった。

◇印　刷　業

各種イベントの開催が発表されて明るい兆しが見えてきた中、印刷関連資材の値上げが景況の好転に水を差しかねない状況。選挙が近づき、関連する印刷物が増え好材料となるところもある。

◇生　コ　ン　ク　リ　ー　ト　製　造　業

官公需、民需それぞれ増加した地域があり、全体の出荷量は前々年の７割程度で前年をやや上回る水準となった。

◇金　属　製　品　製　造　業　①

仕事をシェアしながら工場稼働率・手持ち工事量は比較的高水準を維持できているが、各社に対する見積依頼数は引き続き低調。秋以降の仕事量を危惧する声が聞こえ始めており、先行きは不透明。

◇金　属　製　品　製　造　業　②

組合員の業種間で好不調は相変わらずで、回復の兆しが見えない業種と好調を維持できている業種、一部は上昇に転じている業種もあり組合全体としては前年同月比でほぼ横ばい。

◇各　種　商　品　卸　売　業

５月は全般的に盛り返してきたが、廃業や衣類部門撤退の得意先が多くなってきた。路面店向けは、客足が伸びていないため業績は回復していない。

◇野　菜　果　実　卸　売　業

野菜・果実とも取扱数量は減少したが高値で推移したため金額は大きく伸びた。玉ねぎの高騰の影響が残っており、本格的に野菜類の価格が落ち着くのはまだ先になりそうである。

◇水　産　物　卸　売　業

水産物全体の取引価格の上昇は相変わらず続いており、消費に影響が出ている。

◇各　種　商　品　小　売　業　①

GW は帰省客や観光客も見られ、食品・飲食店舗は好調であったが、衣料品・雑貨店舗は依然として厳しい状況が続いた。県内のコロナ感染は減少傾向であるが、逆に地域内の感染者が増加傾向にあり、客足に大きく影響している。

◇各　種　商　品　小　売　業　②

食品は取引先より値上げの申請が相次いでおり、値上げ商品が増えていている。今後は原材料や光熱費の値上げが続くことで、飲食店のメニュー価格値上げ等も増えてくるので消費意欲への影響を心配している。

◇商　店　街（盛岡市）

３年振りに行動制限がなかった大型連休期間中は、県外からの帰省客や観光客で飲食店街も久々に賑わいが感じられたが、県内の自粛ムードは未だ色濃く連休明けには落ち着いてしまった。食用油をはじめとする食材の仕入れ値高騰により飲食店の収益状況は悪化している。

◇旅　館　業

５月上旬の３連休は地域差があるものの、観光地や温泉等を中心にコロナ前とはならないが回復も見受けられた。カレンダー上は長期の休みとはなっていたが特定日に集中し、前後が寂しかった様子だった。

◇旅　行　業

「県民割」の地域ブロックへの対象拡大や行動制限の解除などにより、旅行を手控える要因が取り除かれ旅行需要の回復が見られた。５月単月では教育旅行の回復が要因となりコロナ禍前まで回復。

◇土　木　工　事　業　①

出荷量は昨年対比で増加したが、一過性のものにすぎず今後は減少すると思われ、先行きが厳しい状況に変わりない。

◇土　木　工　事　業　②

大型民間物件への納入で大忙しだが、前回の反省を踏まえてその他の物件を取りこぼさないように近隣の工場から納入するなど、協同組合の共助が活きている体制だと思う。

◇一　般　乗　用　旅　客　自　動　車　運　送　業

コロナ禍前の数値には程遠いが徐々に改善傾向を示しており、３年ぶりに開催方針が相次いで公表されている各種イベントなど、動き始めた観光や経済活動に期待は大きい。